

指導班だより



今回は、9月5日（水）に訪問した角田市立東根小学校6学年算数の授業を紹介いたします。研究主題『「分かった」「できた」を積み重ね、確かな学力を身に付けることができる児童の育成』に向けて①既習事項・課題提示から学習のまとめにつながる授業展開の工夫（提言3との関連を重視）②自分と友達の考えの交流（解決方法の検討の工夫）の2つの視点で授業実践を行いました。

角田市立東根小学校 6年 算数 割合の表し方を考えよう

本時「等しい比の性質」5/9

事例のポイント→「ひがしねスタンダード」での授業づくり

授業を支えるもの

- ①「解きたい」と思うような問題の準備
- ②自分の考えを表現させるためのノート指導の工夫
- ③「代わり発表」「観点カード」で話し合いの活発化・焦点化

- 算数コーナーの工夫
- ICT機器の積極的活用
- 家庭学習カードの活用（提言5）

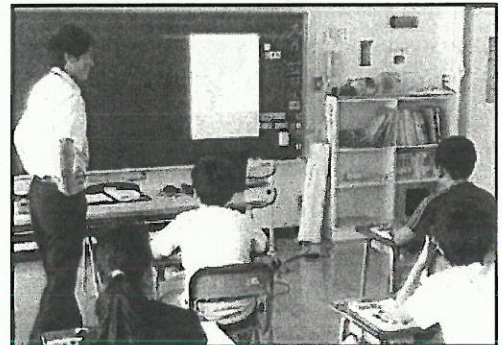
<本時の指導案概要>

<目標>比の性質や比の値を用いて、比を簡単にすることができる。

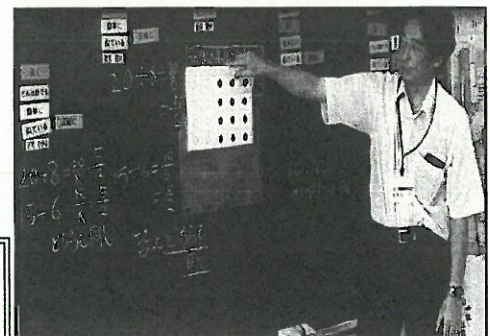
段階	主な学習活動と予想される児童の反応	・指導上の留意点と ④ 研究との関連 ◆評価規準(方法)	□5つの 提言より
導入 (10分)	1. 問題を理解し、課題をつかむ。 8:20と6:15のくじでは、どちらが当たりやすいでしょうか。 2つの比の比べ方を考えよう。	・解決の意欲を高めるため、身近な話題や人を活用した問題を扱う。 ・児童に課題を考えさせる。	④ねらい
展開 (25分)	2. 前時までの学習を振り返る。 ・等しい比は、比の値が等しい。 ・「:」の左右の数に、それぞれ同じ数をかけたり、同じ数でわったりしてきた比は、元の比と等しい。 3. 自力解決を行う。 ・解決できた児童から黒板に考えを書き、自由交流を行う。 ○等しい比を書き出して 8:20=16:40=24:60 6:15=12:30=18:45=24:60 ○公倍数を使って 8:20=24:60 (×3をして) 6:15=24:60 (×4をして)	【視点1-①】 ・自力解決への見通しを持たせるため、前時までの等しい比の関係について算数コーナーや写真を活用して確認を行う。 【視点2-①】 ・自力解決が難しい児童には、教師がつき、算数コーナーを活用して解答へ導く。 ○一番小さい整数の比に直して 8:20=2:5 (÷4をして) 6:15=2:5 (÷3をして) ○比の値を求めて 8:20=8/20=2/5 6:15=6/15=2/5	④ノート
まとめ (10分)	4. 全体で検討する。 5. 振り返りを行う。 ・ノートに授業の感想を書く。 6. まとめる。 2つの比を比べるには、できるだけ小さい比に直して比べればよい。最も小さい比に直すことを「比を簡単にする」という。 ・54:42と簡単にした比を全体で比べる。 7. 適用問題に取り組む。 ・教科書の練習問題に取り組む。 ・できた児童同士で答え合わせを行い、確認する。	【視点2-②】 ・友達の考えにも目を向けさせるため、代わり発表に挑戦させる。 ・児童に話し合いを進めさせるため、「は・か・せ・どん」などの観点カードを活用する。 ・方向性がずれたときに教師が修正する。 ・比を表した表を使って確認する。 本時のまとめにつなげることができるように、分かったこと、発見したこと、まだ課題となることを意識させる。 【視点1-②】 ・自分たちで解決したという思いや自信を持てるようにするため、全体ではより分かりやすいと児童間で評価された文言を書く。 ◆比の相等を分数の相等と関連付けてとらえることができる。【考】(発表) ◆比の性質を用いて、比を簡単にすることができる。【技】(ノート) ・支援が必要な児童に対して声掛けを行い、一緒に解決する。	④声掛け 傾聴 ④称賛 ④感想 ④適用

<授業の実際・児童の様子>

<導入>「くじ」の当たりやすさと比を関連付けた身近な問題（自作のビデオレターの活用）



<展開>「代わり発表」で友達の考えに関連させて自分の考えを発表「は・か・せ・どん」などの「観点カード」で焦点化したまとめ
<まとめ> 分かりやすい自作教材で教師が最後にしっかり確認
→手元の図が上下にスライド、等しい比を確認することができる



【提言3】と関連させ、課題提示から適用問題までの展開の中に、意欲的に取り組ませる様々な工夫が見られました。